

ピワ新品種「涼風」						
<p>[要約] <u>ピワ新品種「涼風」</u>（すずかぜ）は「楠」に「茂木」を交配して育成された。果実は<u>橙黄色の大果</u>で、糖度が高く、果皮障害の発生が少ない<u>豊産性</u>の<u>中生品種</u>である。</p>						
長崎県果樹試験場・育種科	専門	育種	対象	果樹類	分類	普及
平成7年度長崎県果樹試験場業務報告						

[背景・ねらい]

ピワの栽培品種は、「茂木」及び「田中」の2品種に代表される。「茂木」は品質面で優れているが、果実の大きさには問題を残しており、逆に、「田中」は大果であるが、品質がやや劣る。そこで、両者の利点を兼ね備え、大果で品質が優れた品種の育成を試みた。

[成果の内容・特徴]

- ①長崎県果樹試験場において、昭和49年（1974）に「楠」に「茂木」の花粉を交配して育成された実生の中から選抜された。個体番号は74-1330である。昭和63年（1988）より「ピワ長崎1号」の系統名でピワ第1回系統適応性検定試験で検討され、平成8年（1996）8月21日付で「涼風」と命名され、「びわ農林2号」として登録・公表された。
- ②果実の大きさは55g程度で「茂木」よりも大きい（表2）。果形は短卵形から短楕円形、果皮色及び果肉色は橙黄色で、着色の揃いも良好である。また、紫斑症など果面の生理障害も少なく、外観は良好である。
- ③果実の肉質及び硬度は中程度、果汁の量は多い。糖度は平均13.4と高く、食味は「茂木」と同程度でやや良好である（表2）。果皮の剥皮性は良好である。
- ④育成地（長崎県大村市）において5月下旬～6月上旬に成熟する中生種で、「茂木」より若干早く収穫できる（表2）。
- ⑤樹姿は中庸、樹勢は中程度の強さ、枝の発生は多く、着花性は「茂木」と同程度で、栽培管理は比較的容易である。さらに、これまでの試験の限りでは生産性も「茂木」より優れている。また、開花期は「茂木」より1週間程度遅い。がんしゅ病には弱い。

[成果の活用面・留意点]

- ①「茂木」と同等の品質を有する大果の中生品種として普及することが見込まれる。
- ②生産性が優れ、紫斑症の発生が少ないことから、施設栽培においても特性が十分に発揮されるものと思われる。
- ③着花性は優れるが、樹勢は「茂木」よりやや劣るため、樹勢の維持に留意する。

[具体的データ]

表1 「涼風」の特性 (1994年)

場所名	樹勢	熟期	収量	果実重	糖度	酸含量	食味	果実の障害		
								そばかす症	裂果	紫斑症
		月.日	kg	g		g/100ml				
千葉暖地園試	中	6.10	3.1	72	13.0	0.19	やや良	軽	無	軽
香川農試・府中	中	—	—	—	—	—	—	—	—	—
徳島果樹試・県北	中	6.12	1.2	44	11.7	0.40	中	軽	無	無
愛媛果樹試	中	6.7	4.2	55	14.0	0.32	やや良	軽	無	無
鹿児島果樹試	中	5.24	—	60	15.7	0.25	やや良	微	無	無

表2 「涼風」及び「茂木」の特性

年次	樹勢	熟期	収量	果実重	果肉密度	糖度	酸含量	食味	果実の障害		
									そばかす症	裂果	紫斑症
		月.日	kg	g		g/100ml					
<u>涼風</u>											
1992年(5) <sup>2</sup>	中	6.3	5.3	54	中	14.0	0.22	やや良	軽	軽	無
1993年(6)	中	6.3	2.5	54	やや粗	11.9	0.22	やや良	微	微	無
1994年(7)	中	5.30	2.4	56	中	14.2	0.23	良	微	微	無
平均	中	6.2	3.4	55	中	13.4	0.22	やや良	微	微	無
<u>茂木</u>											
1992年(5)	やや強	6.4	1.8	37	中	12.7	0.16	中	軽	軽	無
1993年(6)	やや強	6.7	2.1	40	中	12.5	0.17	やや良	微	微	無
1994年(7)	やや強	6.1	1.1	38	中	13.3	0.19	やや良	微	微	無
平均	やや強	6.4	1.7	38	中	12.8	0.17	やや良	微	微	無

<sup>2</sup> ( ) 内の数字は樹齢を示す。

[その他]

研究課題名：ビワの育種

予算区分：国庫（指定試験）

研究期間：平成8年度（昭和48年～平成7年）

研究担当者：一瀬 至，寺井理治，浅田謙介，森田 昭，橋本基之，中尾 敬

富永由紀子，吉田俊雄，長門 潤，稗圃直史，佐藤義彦

発表論文等：なし